

中学校区におけるめざす子ども像
自分の目標と夢をもち、互いの個性を認め合える子

堺市立長尾中学校
校長 増田 裕一

令和7年度 重点目標
しっかりとした規範意識と人権感覚を持つ生徒の育成 ・ 自ら学び、そして互いに学び合うことのできる生徒の育成 ・ 心身共に健康で夢に向かって挑戦する生徒の育成

確かな学びの現状
・総合的な学力向上研修より、継続して教師の授業改善に取り組んでいる。堺市『学びのコンパス』に基づき、授業に探究的な学びのプロセスを取り入れ、主体的に学習に取り組む自立した学習者を育成する。
・令和6年度の大府府チャレンジテスト結果において、一部教科で府平均を上回っている。しかしながら、すべての教科において、基礎的な分野に苦手意識をもっている生徒が多数見受けられた。今年度は1年生の英語および2年生の数学で習熟度別授業を実施し、基礎学力の定着を図りたい。

豊かな心・健やかな体の現状
・道徳や集会、モラル教室等の中で、子どもたちに『豊かな人権感覚』『確かな規範意識』の醸成を図っている。
・授業開始前に音楽を流すことで授業時刻を守る意識は高まってきている。しかし、登校時刻を守れずに遅刻する生徒も多いので、基本的な生活習慣の確立に向けて取り組んでいる。
・全国平均と比較して不登校生徒の割合が高い現状がある。学校、家庭、地域で支えあい、関係機関と連携して不登校対応に取り組んでいる。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～11月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	教科学力向上	わかる授業づくり	●堺市「学びのコンパス」について研修を進め、それに基づく授業づくりに取り組む。	肯定的な回答80%以上	教員のアンケート	年度末	A 毎学期ごとに教員による相互参観や研修を進めている。	A 「堺市「学びのコンパス」について研修を進め、それに基づく授業づくりに取り組む」「UDの考え方(長尾スタンダード等)を大切に授業づくりを行う」についての肯定的評価がそれぞれ80.5%、87.8%である。	A 次への取り組みにつながるように授業を進めてよかったと思う。
			・UDの考え方(長尾スタンダード等)を大切に授業づくりを行う。	肯定的な回答80%以上	教員のアンケート	年度末	A UDの考え方については特別支援委員会より職員会議などを通じて目標設定などされている。	A 教育活動の中で生徒の番があり、生徒自らが成長や楽しさを実感できればと思います。	
	学びの基礎力向上	主体的に学びに向かう力の育成	●学びを自分ごととして捉え、自ら学びを進める力を育む。	肯定的な回答75%以上	学校教育アンケート	年度末	A	A 「学びを自分ごととして捉え、自ら学びを進める力を育む」「ICTを活用した教育活動を推進する」「授業での話し合いや発表を通して、協動的な学びを進める」についての肯定的評価がそれぞれ84.7%、59.8%、85.5%である。	A タブレットの使用方法の問題は毎年起こっている。グループで話し合いそしてしっかりと意見交換ができていた。
・ICTを活用した教育活動を推進する。			肯定的な回答75%以上	学校教育アンケート	年度末	B 生徒用タブレットが更新時期に重なり、11月から12月にかけて使用頻度が落ち込んでいる。	B 話し合いや発表などのグループワークだと生徒個人の積極性で学ぶ力が違ってくると思うので、先生の声かけがより必要になってくると感じる。		
・授業での話し合いや発表を通して、協動的な学びを進める。			肯定的な回答75%以上	学校教育アンケート	年度末	A	A 生徒用タブレットの活用について来年度、研修も含め活用を促していきたい。	A 自ら考えたことを表現することは大きな自信になります。	
豊かな心・健やかな体	静謐な環境	落ち着いた学習環境づくりの推進	★不登校対応において、中学校区で学校と家庭と地域が連携した環境づくりに努める。	実施状況	実施状況	年度末	A 不登校生については家庭との連携のほか、リソースルーム、通級指導教室、カウンセリングの利用を促し、原因やどのように対応すると登校できるなど校内での連携も密にしている。	A 不登校生への対応については保護者との連絡を密にとり、少しでも登校できるように働きかけている。また、リソースルームや通級教室への利用も促してあり、増加傾向である。	A 教室入り口付近にカバンが置いてあったり、その近くにゴミが落ちていたのが気になった。
			・リソースルームや通級指導等一人ひとりに合わせた多様な学びの場を設定する。	実施状況(利用者数)	実施状況	年度末	A	A 「落ち着いて授業に取り組めるよう、身の回りの整理整頓や教室環境を整える」について、肯定的評価が92.6%であるが、授業環境については生徒への働きかけをおこない、改善の余地はある。	A 通級教室の利用が増加して個別対応が難しくなるなど、先生の人数が足りないことが強く影響していると感じられる。
			・落ち着いて授業に取り組めるよう、身の回りの整理整頓や教室環境を整える。	肯定的な回答75%以上	学校教育アンケート	年度末	B	A 「落ち着いて授業に取り組めるよう、身の回りの整理整頓や教室環境を整える」については肯定的評価が92.6%であるが、授業環境については生徒への働きかけをおこない、改善の余地はある。	A 不登校対応については難しい取り組みだと思いました。各小学校の連携は可能ですが、個人情報の観点から家庭や地域にまで広げることが難しく、その一方で、家庭の状況について、区役所の「家庭相談室」と関係を密にして重篤な不登校や問題行動について協力を得ることができるとしています。
生活習慣の確立	基本的な生活習慣の確立	・時間を守ることを全職員・全生徒で意識して取り組む。	肯定的な回答75%以上	学校教育アンケート	学校教育アンケート	年度末	B 生徒指導等で、教員の授業遅れが見受けられる。教員同士の連絡報告の情報共有の改善を促したい。	B 「時間を守ること」について、肯定的評価が教員が68.3%、生徒が88.7%である。教員が指導等で時間に遅れているのが原因であると思われる、来年度に意識を改革していきたい。	B 地域からの悪声はありませんが、小学校の時の問題がある学年がそのまま入学しているため、しばらくは問題が続くと思う。教員が遅れてしまうと生徒にきちんと促すことができないので、守れるように取り組んでほしい。
		・基本的な生活習慣の確立に向け、保健指導や身だしなみ指導、登校指導等に取り組む。	肯定的な回答75%以上	学校教育アンケート	学校教育アンケート	年度末	A	A 「基本的な生活習慣」については肯定的評価が78.1%である。	A チャイム前の音楽などで時間をわかるように工夫されてて良いと思う。難しい課題だと思います。根気よく取り組みを継続することが必要かと思っています。
魅力ある学校	開かれた学校	積極的な情報発信と地域連携	・学校からの便りは、テトルを利用して情報を発信し、ホームページも積極的に活用する。	肯定的な回答75%以上 ホームページの去年度との閲覧数比較	学校教育アンケート	年度末	A 原則テトル配信としているが、大切な文章については紙ベースでの配布もおこなっている。	A 「情報発信」について、肯定的評価は88.4%である。閲覧数についてはアプリが変更となったため前年度との直接比較は困難だが、増加しているものと思われる。	A 個人的にテトルは見にくく、HPの方がよかった。地域行事の参加率が低下しているが、忙しい中参加できている生徒、職員が対応できていると思う。
			・地域行事に生徒・職員が積極的に参加し、地域連携を進める。	実施状況	実施状況	年度末	B	B 地域行事等に生徒も職員も参加している。	B 学年によって情報発信の早い遅いがあるように思う。HPでこまめな情報提供ありがとうございます。教育活動の一端を知ることができますので、保護者の学校に対する理解は進むと考えます。

校長より(年度末)
今年度は、学校教育目標を改訂し、教育活動に努めてきた。成果としては、校内外の研修によって、授業力向上の意識が高まり、堺市の進める「学びのコンパス」の実践に取り組めたことや学校群として小学校との交流や合同研修・行事などを進めることができた。課題としては、生徒指導事案の多発や不登校生徒の増加があり、それぞれにきめ細やかな指導や支援を行ってはいけるが、複雑な要因もあり、解決に至らないケースもあった。
次年度についても学習指導と生徒指導・支援を両輪に、学校運営に努め、生徒・保護者・教員・地域それぞれの立場で生徒の成長を感じることができる学校を目指す。

学校関係者評価者から(年度末)
授業づくりは毎年よくなっていると思います。個人的には問題ある生徒や不登校生も増え、大変かと思いますが、雰囲気の良い学校だと思います。いろいろな大変だと聞いていたが、思ったよりも落ち着いていた。まだまだ向き合えないといけないことがあると思うが、子ども達一人ひとりが意識して取り組むことのできる方法を見つけてすすめていけたらと思う。
学年や学校全体での情報共有をもう少し細やかにあれば良いと思う。不登校、支援学級生の学び方の種類が増えたら良いと思う。今の先生の人数の中で、とても細やかに対応して下さっていると思う。先生の人数を増やしてほしいと強く願う。